

## P-015

### 医療型障害児入所施設と医療保育士の専門性に関する文献検討 - 保育所保育士の専門性と比較して -

川合 美奈<sup>1</sup>、内田 千春<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 埼玉医科大学 保健医療学部看護学科

<sup>2</sup> 東洋大学 ライフデザイン学研究科

#### 【目的】

保育所のみならず、保育所以外の児童福祉施設、病院等、保育士の活動の場は広がっている。病気や障害のために入院、入所しながら成長・発達する子ども達を支える保育士の存在は大きい。そこで、医療型障害児入所施設の保育士に関する研究と近似環境であると考えられる医療保育士に関する研究から専門性を明らかにし、保育士の大多数が就職する保育所保育士と比較、整理することを目的とした。

#### 【方法】

医学中央雑誌 Web 版および CiNiiResearch を用い「医療保育士」「専門性」または「医療」「保育士」「専門性」のキーワードで論文を検索し、抽出された 10 文献を対象文献 A とした。「障害児入所施設」「保育士」のキーワードで論文を検索し抽出された 14 文献を対象文献 B とした。専門性の記述を類似性により内容を分類した。

#### 【結果】

保育所保育指針に示された [①成長・発達を援助する技術]、[②生活援助の知識・技術]、[③保育の環境を構成していく技術]、[④遊びを豊かに展開していくための知識・技術]、[⑤関係構築の知識・技術]、[⑥保護者等への相談・助言に関する知識・技術] という保育所保育士に求められる 6 つの専門的な知識・技術以外には、医療保育士の専門性として [医療職ではないからこその存在意義]、[生命や治療を優先する中での働きかけ]、[病気と健康、双方への働きかけができる]、[日常のありのままを取り戻す環境づくり]、[経験知を活かしたその場での適切な保育]を行うことが抽出された。医療型障害児入所施設における保育士の専門性は、[子どもの丁寧な観察と振り返り]をすること、[入所児の尊厳を大切にした関わり]をすること、[障害に関わる医療的・福祉的知識]を得ることが抽出された。しかし、保育所保育士、医療保育士では抽出された [①成長・発達を援助する技術]は、医療型障害児入所施設の専門性として抽出されなかった。

#### 【考察】

それぞれの専門性は、働く場や対象の違いを色濃く映していた。保育士の働く場は多様であるが、保育士自身がその専門性を明言できることが、他職種と対等な立場で子どもに関わるためには重要であると考えられる。今後は、多様な場や対象に関わる保育士の専門性の現状を具体的に把握し、働く場が異なってもそれぞれの保育士が専門性を発揮できる方法を検討する必要がある。

## P-016

### BP ファシリテーターが捉えた親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた!」実施の影響と課題

土路生 明美、鴨下 加代、伊藤 良子、加藤 裕子

県立広島大学保健福祉学部保健福祉学科看護学コース

#### 【目的】

親子の絆づくりプログラムである「赤ちゃんがきた!」(BP: Baby Program) 実施者である、BP ファシリテーター(以下、ファシ)が捉えた、生後 2~5 ヶ月の第 1 子を育てる母親への BP 実施の影響と課題を明らかにする。

#### 【方法】

A 県内活動のファシを対象とし、経験年数を個別に把握し、BP 受講者への影響、効果的な実施のための課題についてフォーカスグループインタビュー(FGI)を行った。調査期間は 2022 年 9 月~11 月。ファシ養成講座実施団体の協力を得て、対象者へ調査依頼をした。分析はデータをコード化、意味内容の類似性に基づき質的帰納的にカテゴリー化した。本調査は所属機関の研究倫理委員会の承認を得て実施した。

#### 【結果】

対象者は 20 名であり、経験年数は 1 年未満から 11 年であった。FGI は A 県内 2 か所で 2 回実施し、面接平均時間は 83.5 分であった。BP 実施の影響は 3 カテゴリー(□で表記)、13 サブカテゴリー(◇で表記)、271 コード(「」で表記)を抽出した。BP 受講により「自分と同じように育児に悩む仲間がいることを知る」等〈育児に向き合っているのは自分だけではないと気づく〉〈母になった体験を分かり合える仲間になる〉[母親同士のつながりから生じる子育ての肯定]を述べた。また、「抱っこするときの子どもへの声掛け」等[親子の絆を育む育児技術の獲得]機会となったり、BP 開催〈地域に子育て支援の協力者が増える〉等[地域の支援者となつがる機会]だけでなく、〈ファシ経験が支援者のスキルアップにつながる〉等ファシへの影響も述べた。BP 実施の課題は 3 カテゴリー、10 サブカテゴリー、135 コードを抽出した。〈地域の協力体制を築くのが大変〉や、継続には「ファシは熱意が必要」であり〈ファシへの支援が必要〉等[ファシの人数が不足]が課題に挙げられた。[ファシが BP を開催するためのサポート不足]では〈広報の工夫が必要〉や〈行政のサポートが必要〉と述べ、〈準備が大変〉等[ファシの難しさ]を語った。

#### 【考察】

A 県内でのファシを対象に BP 実施の影響は、母親の子育て不安軽減、乳児期からの仲間づくり、地域とつながる等で、孤立予防となることが明らかになり、BP はポピュレーションアプローチとして有効であると考えられた。BP 対象者が多く受講するには A 県ではファシ人数が不足していることや、対象者へのアクセス可能な母子保健担当課等行政、地域の子育て支援者に BP 理解を促す等実施・協力体制が整うことが必要である。